



図書館サポーターズだより

明日に吹く風



明けましておめでとうございます。今年はイベントも盛りだくさんの年ですね。それらも楽しみながら、良い年にしていきましょう。それでは今月も、図書館サポーターズおすすめの一冊をご紹介します。

～図書館サポーター推薦図書～

『それからスープのことばかり考えて暮らした』

吉田 篤弘 著 (913.6 || Y86)



皆さんはスープと聞いて、なにを思い浮かべるでしょうか。それはコーンのスープだったり、カボチャのスープだったり、あるいはコンソメのスープかもしれません。では「本当においしいスープ」と聞かれたら？

新しく月舟町に引っ越してきた“僕”は現在失業中。古い映画を観ることが趣味。そんな“僕”がトロワという名のサンドイッチ屋さんに出会い、勤め始めることに。そんな彼がある時お店の新メニューであるスープ作りを任されて、物語は進んでいきます。最初から最後までゆったりとしたあたたかな雰囲気にも包まれたお話なので、今のような寒い時期に読むのにぴったりかもしれません。この本を読むときには是非傍らに貴方のお気に入りのスープや飲み物を。より楽しむことができます。(A. T)

『別冊 図書館戦争 I』

有川 浩 著 (913.6 || A71 || 1)



図書館戦争シリーズは、主人公の笠原郁が、理不尽に本を奪う良化特務機関から図書館の自由を守るために図書隊となり、仲間と共に活躍する姿を描いた作品です。郁は堂上教官のもとで日々の厳しい訓練を乗り越えながら成長していきます。はじめは、堂上教官を「性格の悪いチビ」と思っていたが、時折見せる優しさやたくましさで惹かれていき、また、堂上教官も郁のひた向きに頑張る姿に惹かれ、いつの間にかお互いを意識するようになっていきます。この「別冊 図書館戦争」は、郁と堂上教官の想いがやっと通じ合った後のお話が描かれています。

私はこの本を読み、愛する誰かがそばにいて人はこんなにも力が湧いてくるのかと感じました。おすすめの一冊です。是非、一度読んでみてください！ (Y. M)

『終末のフール』

伊坂 幸太郎 著 (913.6 || I68)



皆さんは、世界があと3年後に無くなると聞いたら何をしますか？自分の終末について、考えさせられる物語です。

この本はオムニバス形式となっており、複数の主人公が登場します。それぞれが人生において課題や悩みを抱えており、どれも現実的にありそうな話です。だからこそ身近に感じ、もし本当に世界があと3年で終わるとしたら、と考えると何とも言えない気持ちになります。

この本を読んでみて、「人生とは何か」を真剣に考えさせられます。同じ人類でも考え方や行動は全く違うため、不安や恐怖から自ら死を選んでしまったり暴走したりする人もいますが、終わりがあからこそ生きていけるという考え方の人もいます。生きることと人生は人それぞれだと改めて思える作品です。(K. N)



*図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。